

静岡県漁業協同組合連合会
1122 静岡市追手町 9-18
16.12.10 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 平成16年度県漁業士認定委員会開催される

去る12月6日、本県漁業の中核的漁業者となり得る青年を青年漁業士、更に優秀な漁業経営を行い地域の漁業後継者の育成に役割を果たしている者を指導漁業士として認定するための県漁業士認定委員会が漁業関係者、学識経験者及び県関係者が出席して県庁で開催されました。

その結果本年度は次のとおり、青年漁業士5名、指導漁業士5名が審査の結果承認されました。

青年漁業士：石黒広幸氏(稲取・一本釣) 小原良則氏(吉田町・一本釣) 福世速己氏(吉田町・船引き網、一本釣) 小野田一敏氏(御前崎・船引き網、一本釣) 伊藤良夫氏(浜名・船引き網、延縄、採貝、ノリ養殖)

指導漁業士：竹内照裕氏(南伊豆町・一本釣、刺網) 鈴木宏幸氏(浜名・船引き網、延縄) 山田 豊氏(浜名・船引き網) 古橋宏基氏(浜名湖養魚・養鰻) 山本光則氏(浜名湖養魚・養鰻) カッコ内は所属漁協・漁業種類

なお、認定式は明年1月31日グランシップ(静岡市)で執り行なわれます。

2. 第10回県青年・女性漁業者交流大会開催 県知事賞に松崎町漁協雲見青壮年部が受賞

県並びに本会主催、県信漁連後援による第10回静岡県青年・女性漁業者交流大会が去る12月3日もくせい会館(静岡市)において、県下漁協青壮年部・女性部員約120名の参加のもと開催されました。

今回は、「富士山にじますの森植樹祭について ~漁民の森づくり活動推進事業に取り組んで~」(富士養鱒漁協 石川 健氏) 「ヒラメ中間育成技術の向上を目指して ~ヒラメマンションの導入と効果~」(沼津市漁協青壮年部連絡協議会 水崎幸司氏) 「ブルーツーリズムに取り組んで」(松崎町漁協雲見青壮年部 高橋英男氏) 『『サクラエビ』を守るため今私たちにできること』(由比港漁協女性部 原 千晴氏) の4件の発表と、「品質管理における先進地視察報告について」(富士養鱒漁協 尾中泰之氏)と題した県外先進地視察報告が行われたほか、「密漁 ~一般市民の犯行~」(県立焼津水産高等学校航海工学科3年 大橋俊介君)の生徒研究発表が行われました。

夫々の4件の発表は審査委員8名(審査委員長：村松高明県水産試験場長)による厳正なる審査が行われた結果、松崎町漁協雲見青壮年部が「青壮年部員のほとんどが漁業経営をする一方で民宿を営み、雲見地区の活性化を期する取り組みとしてブルーツーリズムを取り入れ、海藻押し葉やナイトクルージングなど組織や地域の特性を活かした活動を行なった」と高く評価され、最優秀賞(県知事賞)に選ばれました。

また、由比港女性部が「40年以上に亘り地元特産であるサクラエビのPRや魚食普及活動、環境改善など積極的な活動を幅広く展開している」と評価され女性代表として雲見青壮年部とともに、明年3月上旬開催予定の第10回全国青年・女性漁業者交流大会に出場

することが決定しました。

3. 平成17年度、漁業高等学園に「沿岸漁業コース」を新設

静岡県では、県立漁業高等学園(鈴木達夫園長)に、従来の遠洋・沖合漁船員を養成するコースに加え、平成17年度から沿岸漁業コースを新設します。

同学園は昭和45年の創立以来、全寮制1年の漁業後継者養成機関として、卒業生のほぼ全員を漁業界に送り出し、県内の漁業就業者の確保に大きな役割を果たしてきました。しかし、近年は入学生が定員の半分程度に低迷しているほか、遠洋漁業の縮小等により卒業生の就職する漁業分野も大きく変化しています。

その一方で、県内の漁業就業者の減少と高齢化は急速に進行しており、静岡県では、漁業就業者の確保に向けて漁業高等学園をより有効に活用できるよう、時代にあった就業訓練機関に脱皮させるため、門戸の開放と多様化をキーワードに、今回の改革に着手することになりました。

新設される沿岸漁業コースでは、沿岸漁業の就業に必要な知識・技能の習得や1級小型船舶操縦士免許、2級海上特殊無線技士免許の取得を目的としています。長期遠洋航海研修はありませんが、漁家等での漁業実地研修が2週間程度盛り込まれる予定で、研修期間は合計3ヶ月以内とし、原則通学制です。

応募資格は漁業への就業を希望する者で、年齢・性別は問いません。漁師の後継ぎになろうとする人や、UターンやIターンで漁業への就業を希望する人などの就業訓練機会として広く活用していただくことを目指しています。

また、静岡県では、沿岸漁業コース新設に伴い、研修生の募集、漁業実地研修の受け入れ先紹介、修了生の就業先の開拓などについて、漁業関係者の格別の理解、協力を呼び掛けています。 問合せ先：県水産振興室 TEL:054-221-2453

E-mail : suisanshinkou@pref.shizuok.lg.jp

4. 故鈴木善幸先生を偲ぶ会 しめやかに執り行われる

JF全漁連、大日本水産会、漁船海難遺児育英会等水産関係6団体の主催による「故 鈴木善幸先生を偲ぶ会」が去る12月1日東京・虎ノ門パストラルで開かれ、島村宜伸農水大臣ら400名を超す水産関係者が故人の業界における数々の業績を偲び冥福を祈りました。

まず、主催者を代表して植村正治JF全漁連会長の挨拶のあと、黙禱に引き続き、島村大臣、宮原九一 漁村文化協会理事長、金澤勘兵衛JF岩手漁連会長が追悼の辞を述べました。

アンサンブル・ラ・メールによる弦楽三重奏「北上夜曲」「G線上のアリア」の献奏と、生前の水産界へのメッセージを含む故人を偲ぶ映像が上映された後、中須勇雄大水会長が謝辞を述べ、終わりに遺族を代表して鈴木俊一氏が挨拶を行ない、参列者全員が献花し、冥福を祈りました。

5. 諸会議・日程(12月14日(火)~12月27日(月))

- 既報分省略 -

12月16日(木) 県漁連 = 水産業における台風被害と対応策に関する検討会 (県庁)

12月22日(水) 県漁協組合長会議実行委員会 = 県知事へ陳情 (県庁)

" 県桜えび漁業組合 = 役員会 (県水産会館)